

寒さも厳しくなって参りましたが、皆様におかれましてはお元気でお過ごしのことと拝察いたします。

早いもので、今年もあと数日となりました。年が明けるとほどなく秋学期の講義が最終回を迎え、定期試験が始まります。今年度もコロナ禍での講義となりました。昨年度の教訓を踏まえ、1年生を対象としたベーシック科目については広い教室にてハイフレックス（対面とオンラインの併用）で提供し、その他の講義については、春学期は履修者が50人未満、秋学期は70人未満の科目については対面で、それ以上のものについては、録画したものをオンデマンドで視聴できるような形で提供しました。

春学期終了後に在学生から話を聞く機会がありましたが、特に1年生からは多くの講義を対面で受けられることに対して肯定的な反応をもらいました。教室での講義だけではなく、その前後の時間で友人と話をしたり、お昼ご飯を一緒に食べたりすることが大切なようです。一方、上級生は、オンデマンドと対面講義をうまく組み合わせて履修をしているようです。卑近な例で恐縮ですが、私は火曜日の1限(9時～10時半)に2年生以上が履修できる講義を担当しています。

春学期の科目は受講生が50人未満なので、対面で実施しました。秋学期の科目

は外国語学部との合同科目で、例年 80～100 人が履修していたため、オンデマンドでの提供となりましたが、今年は 300 人弱が履修しています。朝 9 時までに教室に来て受講するのは大変ですが、オンデマンドであれば、各自の都合の良い時間に受講できるからなのだと思います。毎回講義あとに講義の振り返りの問題と講義に関する質問や感想をオンラインで提出してもらっていますが、履修生の大半が期限までに提出をしてくれていますし、質問やコメントも多く、講義をしている私も対面での講義とは違った刺激をもらっています。

コロナの状況にもよりますが、来年度は大半の講義を対面で実施する方向で準備をしています。キャンパスに来て講義を受けることには様々なメリットがあることも確かです。しかし、履修生が 100 人を超えるような講義は、教員が話し受講生は静かに聞くという形式になりがちのため、そのような講義については、オンデマンドでも受講できるという選択肢があった方が、学生にとっては学び易いのかもしれません。コロナ前は対面しかありませんでしたが、今はオンライン、オンデマンド、ハイフレックス等々、講義の提供方法が増えましたので、学生の学びにとって最適な方法を考えながらより良い講義を提供できるようにしたいと考えております。

今年度から杏ジャーナルが休刊となったため、こちらのページに学部の様子などを時々投稿させていただきたく思っております。学生の活動については、学部のホームページ (https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/faculty/social_science/special/blog/student/) に掲載しておりますので、ご覧いただけますと幸いです。

総合政策学部

学部長 北島 勉